

# 石狩管内教育研究会社会科部会 「地区活動だより」

## 1 今年度の石社研の研究

- A. 研究主題 **「深く考え、生き生きと学び合う社会科学習の創造」**
- B. 研究内容 ①身につけさせたい力を明確にした「単元構成」の工夫  
②社会的事象の本質にせまる「授業」の工夫  
③子ども一人ひとりの伸びを的確に見取る「評価」の工夫
- C. 研究計画 今年度は、4年継続研究の4年目。平成21年度までの研究の成果と課題をふまえて更に追究・深化させる。研究の具体化については石社研の研究内容を受けて、各市町村（千歳、恵庭、北広島、江別、石狩、当別・新篠津）の推進委員を中心に具体化される。また、各市町村の独自性を十分に生かした研究を進めていく。
- D. 研究方法 **①実践検証の方法**  
各市町村、各会員の主体的な研究に重点を置き、自ら検証すべき単元を検討し実践を深めるものとする。各市町村の実践報告という形で提言の市町村を推進委員会で確定し、合同会議において討議の柱を設定し、石教研二次集会（石狩市）において交流する。
- ②部会情報の発行**  
部会連絡、各種研究会報告、授業実践の交流、各市町村の声などを定期的に発行し、部会のパイプ役として情報活動の充実に努める。
- ③講演会**  
6月17日に、玉川大学教授の寺本潔氏を招いて、「これからの社会科」をテーマに講演を行った。

## 2 今後の研究体制

会員数約150名の組織であるが、各市町村とも研究組織が整備され、研究実践への取り組みも充実発展してきている。これは、市町村の推進委員の熱意ある努力とそれを支える会員各位の協力によるものといえる。今後も、役員、推進委員、教育課程委員間の連携を密にし、部会研究を強力に推し進めたい。

## 3 組織活性化に向けた特色ある取り組み

石社研学習会…教職経験10年以下の社会科部員の先生方を中心に行っていた若手研修会であったが、若手部会員の減少から参加対象者を経験15年以下に拡大し「学習会」と名称を変更した。今年度は、ファシリテーションを活用した授業の仕方と授業検討について研修を行った。次年度以降も、模擬授業をはじめ、会員のニーズに沿った運営をしていく。

（文責 石狩管内教育研究会社会科部会事務局長 森國 聡）